



リニューアルオープンした郷土資料館を見て回る長尾市長（中央）ら

平川市郷土資料館リニューアル

展示数は以前の倍に

魅力発信と活用期待

平川市文化センター内の市郷土資料館が展示内容を大幅に見直し、19日にリニューアルオープンした。市と弘前大学の連携協定に基づき、教授や学生らが中心となって展示方法や内容を検討し、市の民俗や芸能、生活に関わる資料の充実を図った。展示数も以前の倍近い約800点となっており、入場無料で、午前9時から午後5時まで見学可能。

同日、長尾忠行市長らがテープカットでリニューアルを祝い、資料館を見学し、市の魅力発信と活用に期待を寄せた。

リニューアルは2018年度から3カ年計画で、同大人文社会科学部の上條信彦教授と学生たちが、資料館取蔵庫内の整理と展示の内容や方法の検討を進めてきた。

昨年5月オープンの予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期となっていた。

ガラスケース内にLED照明を取り付けて明るく見えるようにし、廃材などを壁や展示台に活用。予算を抑えながらも展示スペースを拡張し、リニューアル後は従来の約1.5倍に広がった。

展示品は、これまで資料の劣化などで展示できなかった古文書などの紙の資料や、スペースがなく展示できなかった民具などが常設展示されるように、また、縄文・弥生時代ごろから近現代まで時代を追って見学できるように配置され、昔の農家の暮らしを再現したスペースも新たに設けられた。

長尾市長は「これまで十分に活用できなかった市の文化財が、こうして魅力を発信できるようになりありがたい」とあいさつ。上條教授は「市民らに興味を持ってもらえるよう、調査研究の成果発表や展示品の追加、変遷などソフト面の改良を続けたい」と話した。

（須々田一宏）